

ふるさと歴史学習事業「出雲に残る戦争の爪痕」^{つめあと}について

出雲市文化財課では、児童・生徒が郷土の歴史に興味を持ち、ふるさと出雲を愛する心を育むことを目的に、職員が講師となって市内の文化財などをテーマとした学習を行う「ふるさと歴史学習事業」を実施しています。

令和3年度からは「出雲に残る戦争の爪痕」をテーマに加え、旧大社基地の現地見学などを行っています。

【主な内容】（全体所要時間：約120分～150分、応相談）

◆座学「出雲に残る戦争の爪痕」

出雲弥生の森博物館にて、旧大社基地周辺の様子や建設の経緯を学ぶほか、防空監視哨やレーダー基地の跡、松ヤニ採取の痕跡など、出雲市内に残る戦争関連施設について事前学習します。

（所要時間：30分～60分）



◆旧大社基地滑走路跡

旧大社基地の滑走路跡の現地に移動し、建設当時の様子を説明しながら、滑走路の広さやコンクリート敷設の状況など、現地の状況を体感してもらいます。

（所要時間：約20分）



◆物資保管壕跡

大社基地滑走路南側の山間には、斜面に横穴を掘りコンクリートで固めた壕が多数つくられ、魚雷や弾薬、燃料などが保管されていました。そのうち現存している壕の内部見学を行います。

（所要時間：20分～30分）



◆J R 段原鉄橋

昭和20年7月28日、大社基地周辺に空襲があった際、米軍機により被弾した銃弾痕が鉄橋の橋桁に残っています。

現地を見学することで、戦争の恐怖を身近に感じることができます。

（所要時間：20分）



大社基地跡周辺

